

1K09B024

指導教員 主査 原田宗彦 先生

岩田 大佑

副査 宮内孝知 先生

【緒言】

日本のトップスポーツの基盤となっている学生スポーツ、その中でも大学スポーツは日本のスポーツ発展において非常に重要な過程の一つとしての働きを担っている。しかし、井上ら（2010）が「体育会系と一括りにされた集団が起こす諸問題を筆頭に、世間から疎外されている状況にあると言わざるを得ない」としているように、大学体育会への世間の評価は高くないのが現状である。さらに岡本（2004）が、「実業団運動部が次々に廃部になるということは、これまでも限定されてきた学生アスリートの進路をより狭くすることであり、さらには、将来の進路に不安を持つアスリートが、早々に競技生活に見切りをつけてしまうことにも繋がるであろう」と危惧しているように、国内の景気低迷による企業スポーツの衰退に伴い、大学スポーツもその煽りを徐々に受け始めていると考えられる。

近年の少子化の影響で大学間での淘汰が進み、他校との差別化を図る独自の強みが必要となってくる中で、大学スポーツは大きな役割を果たしている。日本総合研究所の行った調査（2008）では、「スポーツ観戦が大学への「親近感」や学生（および卒業生）の「一体感」につながると考えている人の割合が59.4%ある」という結果が出ている。またJOCの「大学スポーツの活性化報告書」（2003）でも「スポーツでの活躍により、学生、卒業生、保護者、教職員の大学に対するアイデンティティが高揚するという側面と、大学の知名度が向上し、受験生が増加するという大学ブランド力の強化という2つの側面を内包していた」と指摘している。また、稲見（2006）が主張する卒業生による寄付金のマーケティングのモデルによると「愛校心」という概念が大学スポーツおよび大学経営にとって重要なキーワードになっているということが考えられる。

【目的】

愛校心という概念を構成する要因を明らかにし、愛校心尺度を開発すること、および愛校心に対して大学スポーツ観戦がどれだけ影響を与えるのか関連性を明らかにする以上の2点を本研究の目的とする。

【方法】

3回の段階に分けて調査を行った。10月27日（土）の野球早慶戦で予備調査①を行い、自由記述からKJ

法を用いて愛校心を構成する概念を因子として抽出した。11月20日（火）に予備調査②を行い尺度の信頼性と妥当性を検討した。12月2日（日）のラグビー早明戦で本調査を実施し、項目の検討を行った。調査対象は全て一般の大学生とした。

【結果】

本研究の結果をまとめると、①自由記述により「愛校心」を構成する因子の抽出を行った。②尺度の信頼性と妥当性の検討を行い、最終的に6因子34項目の愛校心尺度を開発した。因子名はそれぞれ「伝統」「教育」「環境」「メディア」「スポーツ観戦」「所属・交流」となった。③男女間では女性のほうが多くの項目において愛校心に影響を与えることが明らかとなった。④学年が上がるにつれて、校歌といった大学の伝統的な事物に接する時やスポーツ観戦時が愛校心に対して影響を与えることが明らかとなった。⑤他因子と比較してスポーツ観戦が愛校心に対して大きく影響を与えることが明らかとなった。以上の5点が本研究で得られた結果である。以下の表1はスポーツ観戦とそれ以外の因子との差の優位性を求めるために、全項目の合計得点に占める各因子を構成する項目の合計得点の割合を算出した上で、スポーツ観戦因子と他の因子の差を対応のあるt検定を用いて分析した結果である。

表1. スポーツ観戦と多因子との差のt検定

	対応サンプルの差		t 値
	平均値	標準偏差	
スポーツ観戦—伝統	.0397	.0496	9.597 ***
スポーツ観戦—教育	.0386	.0623	7.428 ***
スポーツ観戦—環境	.0539	.0599	10.803 ***
スポーツ観戦—メディア	.0012	.0417	.332
スポーツ観戦—所属・交流	.0225	.0636	4.248 ***

***p<0.001

【考察】

大学スポーツ観戦は愛校心を高める重要な手段の一つとなりうるということが明らかになった。大学は学生スポーツおよび学生スポーツ観戦の場をより盛んにするような方策を講じるべきである。本来大学とは学術機関であるため、教育に力を入れることが第一であり当然であるべきだが、一方で愛校心の概念要素となった他の要素にも注力することは、大学経営にとって重要であることが本研究の結果より示唆された。